

令和6年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 18	公益目的事業 19
主査名	長田哲平 宇都宮大学准教授	
研究テーマ	多面的なデータからみた地方都市の物流実態に関する研究	
<p>情報通信の進展や新型コロナウイルス感染症対策によりテレワークなどが進み、通勤・通学や業務などにおいて人が移動しなくても済むような場面が出てきた。一方で、人々が生活する上では様々物資が必要であり、これらの物資を移動させるためには自動車をはじめとした交通手段による輸送が必要となる。輸送後には、交通手段を駐車施設などに止め荷さばきがなされて物資を必要とする人のところに届けられる。このような一連の物流は、東京都市圏などの大都市では、定期的な調査などによって一部では物流実態がわかっている。しかしながら、地方都市に目を向けると調査なども乏しく物流実態は定量的にわかっていない。地方都市においても、中心市街地には大都市同様に、物流の着施設となる商業施設やオフィスなどが立地しており多数の荷さばき活動が行われている。大都市に比べると地方都市は自動車通行量と歩行者通行量も少ないことから、路上における荷さばき活動のルールを定めることで十分に対応できると考えられるが、物流実態がわかってないことからルールや対策を考えることも困難である。</p> <p>そこで、地方都市で問題となっている都市内の低未利用地である路外駐車施設の集約や、路外駐車施設の荷さばき駐車場としての活用、時間帯規制などの施策検討ができるように、既存統計調査や民間プローブデータなどの多面的なデータを活用して地方都市内での物流実態を明らかにすることを目的とする。</p> <p>研究の方法として、まず地方都市の交通特性や物流実態調査の状況などを整理する。次に具体的な事例として、地方都市である栃木県宇都宮市を対象に、既存統計調査や民間プローブデータなどの多面的なデータを用いて物流実態を明らかにする。そして、研究のまとめを実施する。</p>		